

2022年12月期 第2四半期決算 説明資料

ロイヤルホールディングス株式会社

(証券コード：8179)

<https://www.royal-holdings.co.jp>

2022年8月10日

ROYAL
ロイヤルホールディングス株式会社

I 2022年12月期 第2四半期 実績報告

II 中期経営計画の進捗

III Appendix

I 2022年12月期 第2四半期 実績報告

II 中期経営計画の進捗

III Appendix

I-1. 連結損益

- ✓ 売上高は、「まん延防止等重点措置」の解除に伴い、行動制限が緩和されたことから、各事業セグメントで需要が回復し、対前年で増収
- ✓ 経常損失は、既存店の収益改善や構造改革の効果（事業再編、不採算店撤退など）、助成金収益計上などにより大幅に縮小、EBITDAは黒字化

(単位：百万円)

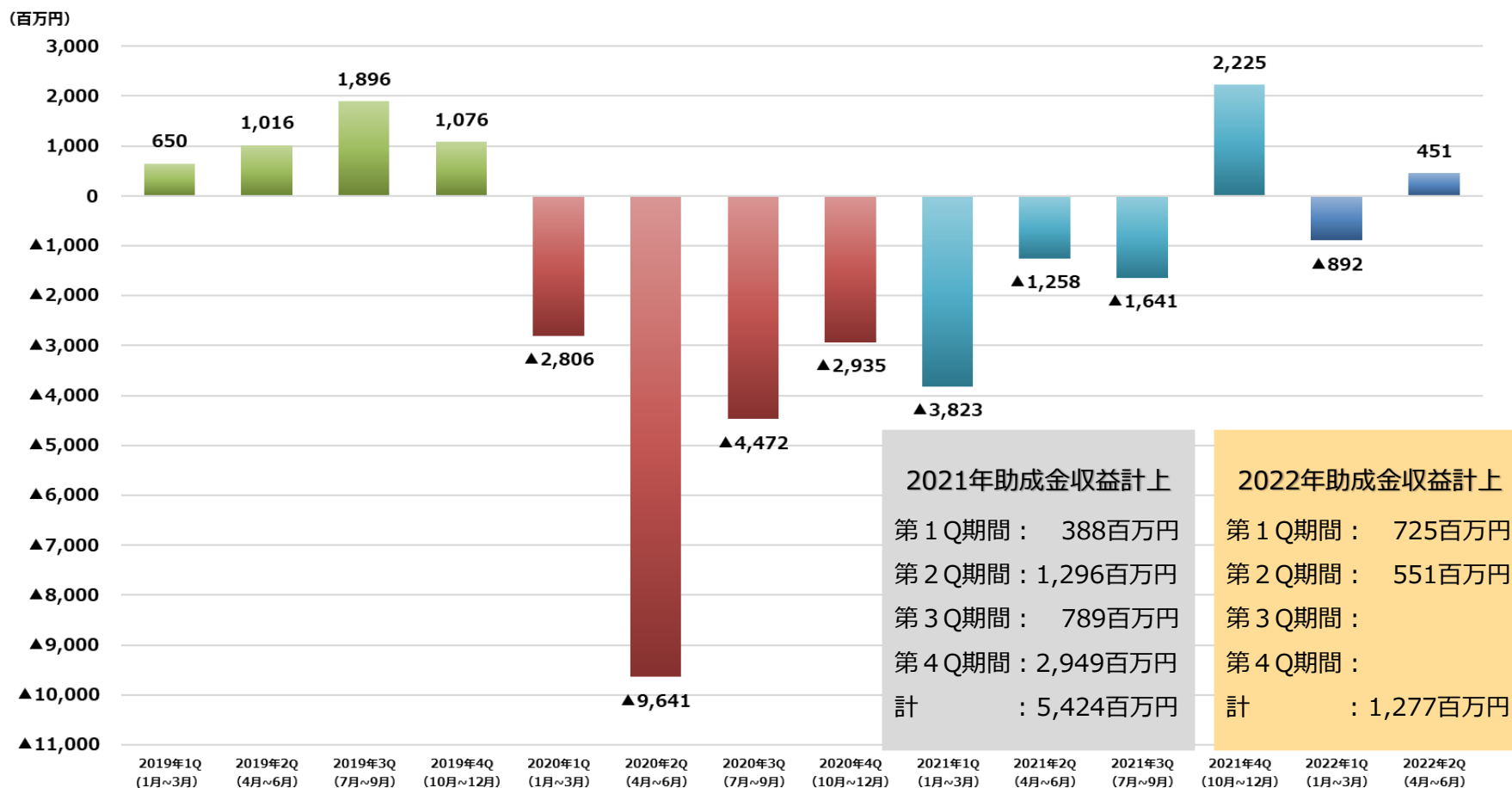
	2021年12月期 第2四半期	2022年12月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	38,668	47,386	8,718	22.5%
営業利益	△5,275	▲739	4,535	-%
経常利益	△5,082	▲440	4,642	-%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△3,168	▲668	2,499	-%
E B I T D A	△1,906	2,538	4,445	-%

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却額 + ネット支払利息

I - 2. 連結経常損益推移（四半期毎）

- ✓ 2022年第2四半期期間（4月～6月）は、外食や宿泊、地域間移動の需要が徐々に回復し、経常黒字を確保
- ✓ 助成金収益計上は対前年で減少したものの、第2四半期期間の経常損益は黒字化

連結経常損益推移（四半期）



I-3. キャッシュ・フロー

- ✓ 営業キャッシュ・フローは、3 四半期期間連続でプラス
- ✓ 投資キャッシュ・フローは、持分法適用会社（ハイウェイロイヤル株式会社）の株式追加取得によりマイナス
- ✓ 財務キャッシュ・フローは、双日株式会社の新株予約権行使によりプラス
- ✓ 上記により、キャッシュ・フロー合計は44億円、現預金残高は期末時点で276億円

(単位：百万円)

	2021年度 第2 四半期	2022年度 第2 四半期	増減額
営業キャッシュ・フロー	△5,073	1,982	7,056
投資キャッシュ・フロー	2,347	▲3,120	△5,468
（うち設備投資）	△1,273	▲1,037	236
財務キャッシュ・フロー	13,251	5,625	△7,625
キャッシュ・フロー合計	10,525	4,487	△6,038

現金及び預金	24,394	27,601	3,207
--------	--------	---------------	-------

I-4. バランスシート

- ✓ 2022年度6月末時点の自己資本は394億円、自己資本比率は34.8%まで回復
- ✓ 固定長期適合率は86.6%、当中間期増減で▲1.6%

(単位：百万円)

	2021年度		2022年度	当中間期 増減額
	6月末	期末	6月末	
総 資 産	109,944	109,767	113,457	3,690
(参考) うち現金及び預金	24,394	23,113	27,601	4,487
有 利 子 負 債	59,878	59,033	58,327	△705
借 入 金	28,847	25,960	26,067	107
(ネット借入金)	(4,453)	(2,846)	(▲1,534)	(△4,380)
リ ー ス 債 務	31,031	33,073	32,260	△812
自 己 資 本	34,187	33,999	39,456	5,456
自 己 資 本 比 率	31.1%	31.0%	34.8%	3.8%
固 定 長 期 適 合 率	89.4%	88.2%	86.6%	△1.6%

I-5. セグメント別損益

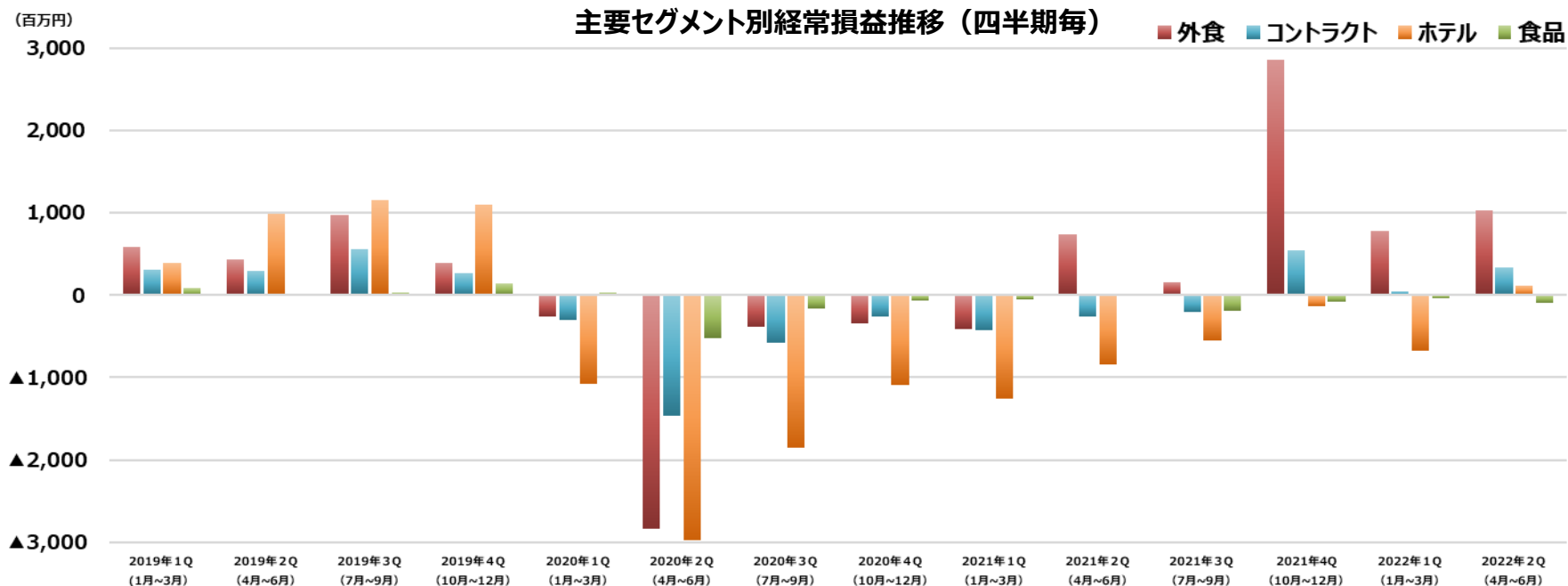
- ✓ 外食・コントラクト・ホテル・食品の主要事業セグメントで、売上高は前年を超過
- ✓ 外食・コントラクトの2事業は経常黒字を確保
- ✓ ホテル事業の損失額は縮小、食品事業は原材料価格高騰の影響により対前年で減益

(単位：百万円)

	2021年12月期 第2四半期		2022年12月期 第2四半期		前期比較	
	売上高 (占有) (%)	経常利益	売上高 (占有) (%)	経常利益	売上高 増減額 (増減率) (%)	経常利益 増減額
外食事業	21,240 (54.9)	326	25,191 (53.2)	1,813	3,950 (18.6)	1,486
コントラクト事業	7,640 (19.8)	△678	10,259 (21.7)	385	2,618 (34.3)	1,063
ホテル事業	7,402 (19.1)	△2,094	9,957 (21.0)	▲554	2,555 (34.5)	1,540
食品事業	4,312 (11.2)	△30	4,755 (10.0)	▲139	442 (10.3)	△108
その他事業	397 (1.0)	△545	173 (0.4)	▲255	△223 (△56.3)	290
セグメント間 相殺	△2,325 (-)	-	▲2,950 (-)	-	△625 (-)	-
全社部門	- (-)	△2,060	- (-)	▲1,690	- (-)	369
合計	38,668 (100.0)	△5,082	47,386 (100.0)	▲440	8,718 (22.5)	4,642

I-6. 主要セグメント別経常損益推移（四半期毎）

- ✓ 主力の外食事業は5四半期連続、コントラクト事業は3四半期連続で経常黒字
- ✓ ホテル事業は、コロナ禍以降で初めて、10四半期振りに経常黒字に転換

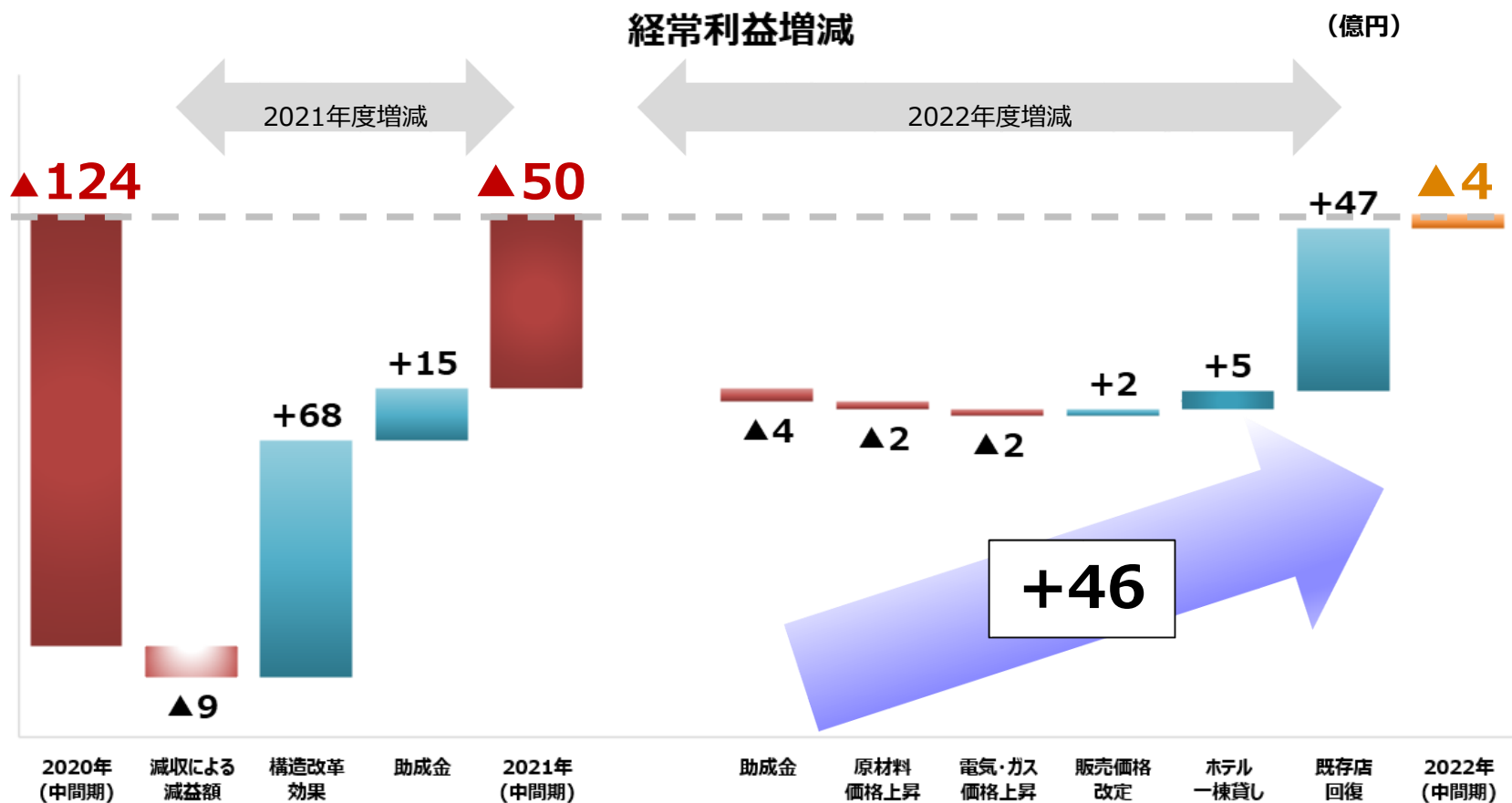


	2019年1Q (1月~3月)	2019年2Q (4月~6月)	2019年3Q (7月~9月)	2019年4Q (10月~12月)	2020年1Q (1月~3月)	2020年2Q (4月~6月)	2020年3Q (7月~9月)	2020年4Q (10月~12月)	2021年1Q (1月~3月)	2021年2Q (4月~6月)	2021年3Q (7月~9月)	2021年4Q (10月~12月)	2022年1Q (1月~3月)	2022年2Q (4月~6月)
外 食	582	438	968	391	▲254	▲2,830	▲386	▲343	▲414	740	162	2,850	784	1,028
コ ン ト ラ ク ト	307	299	555	264	▲308	▲1,460	▲576	▲258	▲420	▲258	▲198	539	49	335
ホ テ ル	392	983	1,149	1,098	▲1,074	▲2,979	▲1,852	▲1,091	▲1,254	▲840	▲549	▲140	▲670	116
食 品	88	▲15	29	140	32	▲527	▲166	▲66	▲53	23	▲186	▲73	▲41	▲97
連 結	650	1,016	1,896	1,076	▲2,806	▲9,641	▲4,472	▲2,935	▲3,823	▲1,258	▲1,641	2,225	▲892	451

(百万円)

I-7. 対前年経常利益改善内訳（第2四半期）

- ✓ 前年（2021年第2四半期）に対して、87億円の増収、46億円の増益
 - ✓ 助成金（時短協力金・雇用調整助成金）は対前年で▲4億円の減少
 - ✓ 原材料、電気・ガスの価格高騰の影響は▲4億円、価格改定等の対応で+2億円改善
- ※ 年間のコストアップは原材料+11億円、電気・ガス+9億円を想定



I-8. 主要事業ライン別損益

- ✓ 外食・コントラクトの2事業では、全ての事業ラインが経常黒字
- ✓ ロイヤルホスト・その他外食・空港ターミナル・高速道路・事業所内等が増収増益
- ✓ リッチモンドホテルでは、宿泊需要が緩やかに回復し、損失額は縮小

(百万円)

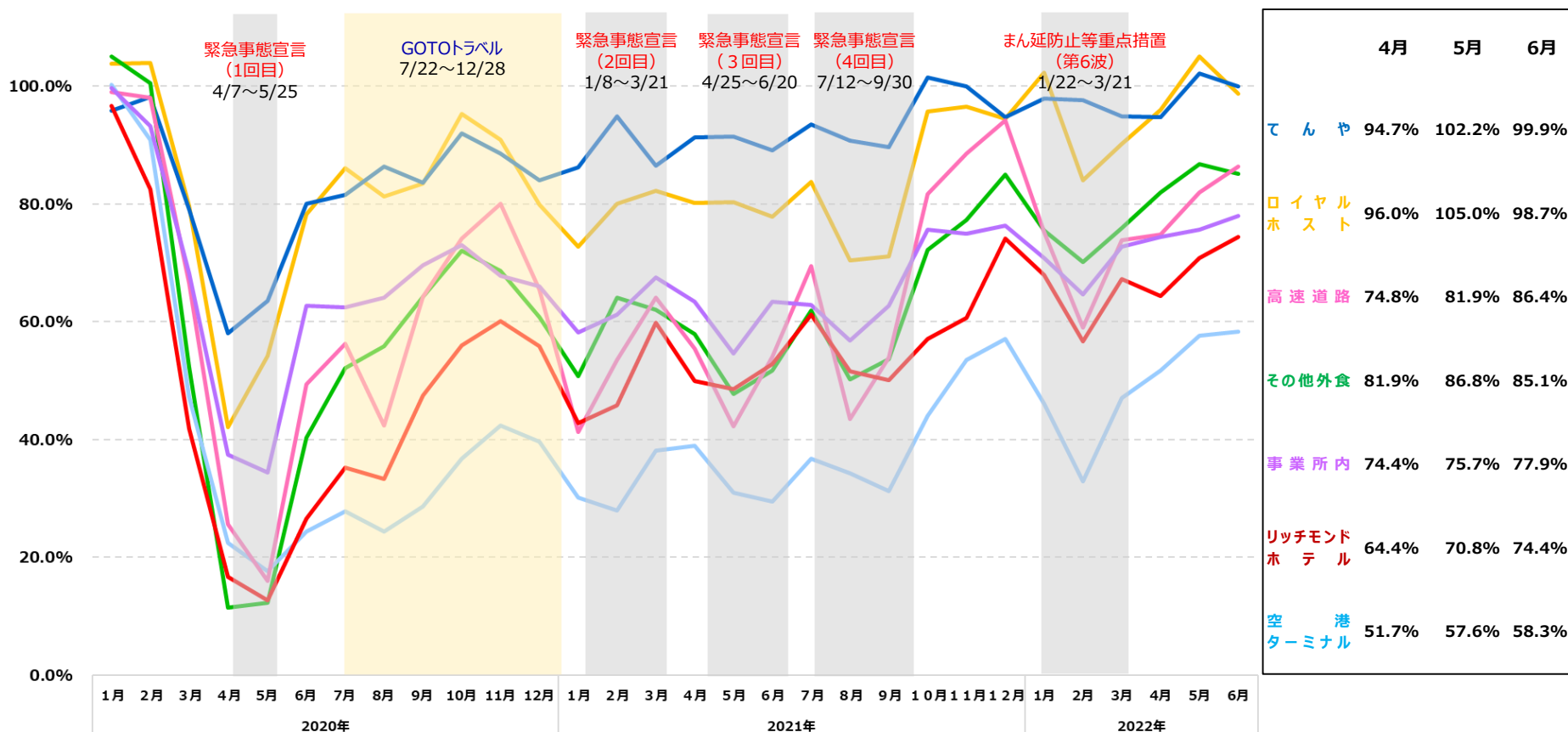
		2021年12月期 第2四半期		2022年12月期 第2四半期		前期比較	
		売上高	経常利益	売上高	経常利益	売上高	経常利益
外食事業	ロイヤルホスト	13,463	671	16,307	1,666	2,844	995
	てんや	4,856	536	4,960	352	104	△184
	その他外食	2,921	△479	3,922	230	1,001	710
	外食本部	0	△402	0	▲436	0	△34
計		21,240	326	25,191	1,813	3,950	1,486
コントラクト事業	空港ターミナル	1,318	△87	1,927	150	608	237
	高速道路	2,543	△364	4,082	156	1,539	520
	事業所内等	3,779	△46	4,250	321	470	367
	コントラクト本部	0	△180	0	▲243	0	△62
計		7,640	△678	10,259	385	2,618	1,063
ホテル事業	リッチモンドホテル	7,402	△2,008	9,957	▲429	2,555	1,578
	ホテル本部	0	△86	0	▲124	0	△38
	計	7,402	△2,094	9,957	▲554	2,555	1,540
食品事業	工場・購買物流ほか	4,312	104	4,755	▲35	442	△140
	食品本部	0	△135	0	▲103	0	31
	計	4,312	△30	4,755	▲139	442	△108

(注) てんやには台湾子会社、その他外食・高速道路・リッチモンドホテルの経常利益には持分法適用会社の損益を含んでおります。

I-9. 既存店売上高 対2019年比推移

- ✓ 2022年第2四半期期間（4月～6月）は、行動制限の緩和により、各事業ラインにおいて、売上高対2019年比の水準は上昇
- ✓ 5月度については、ロイヤルホストとてんやの外食2ブランドがコロナ禍前の水準を達成

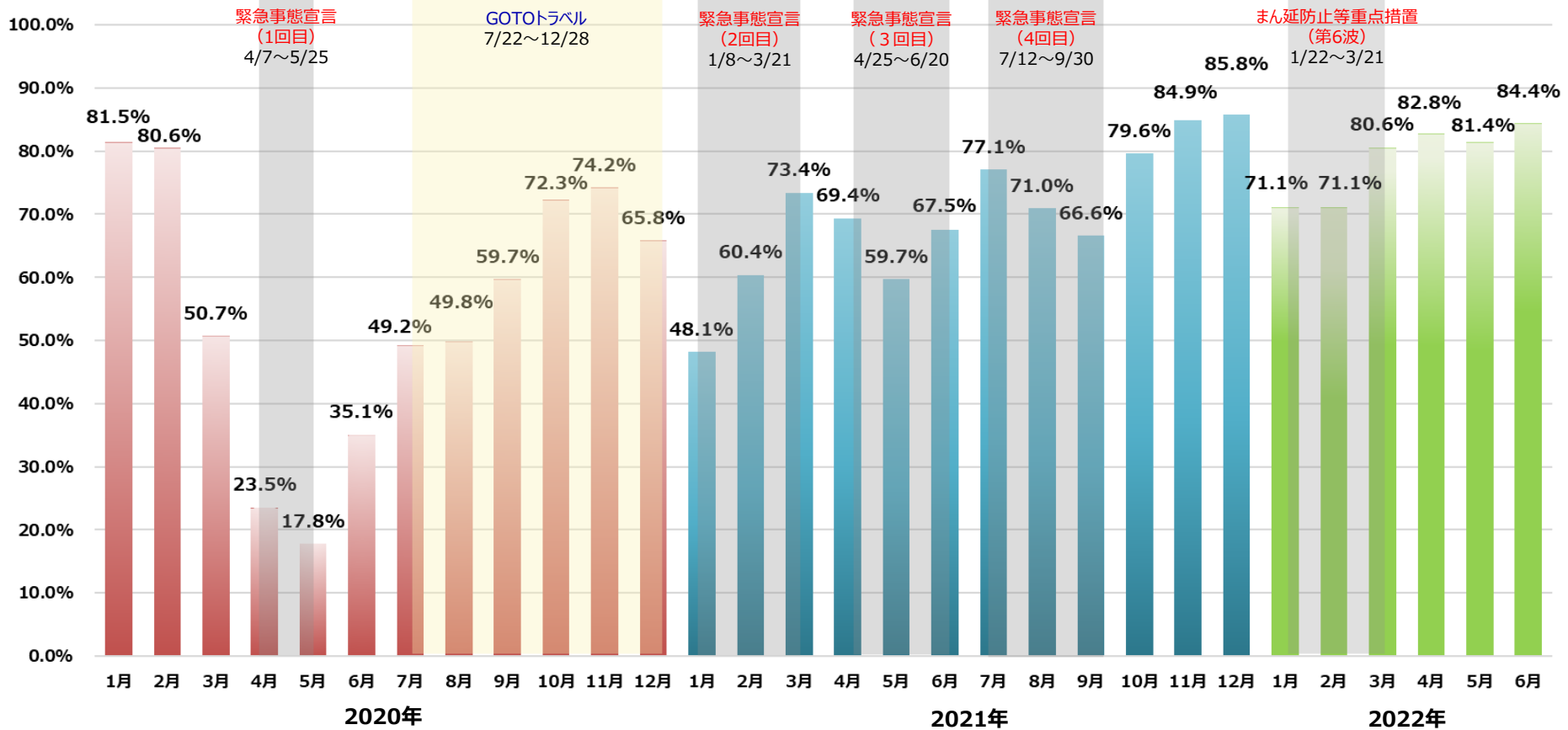
既存店売上高 対2019年比推移



I-10. リッチモンドホテル客室稼働率推移

- ✓ 2022年第2四半期期間（4月～6月）の客室稼働率は、「まん延防止等重点措置」下の前四半期期間（1月～3月）に対して、回復が顕著
- ✓ 4ヶ月連続で稼働率は80%を超過する水準まで上昇し、6月度については84.4%

リッチモンドホテル客室稼働率推移



※ 客室稼働率には、新型コロナウイルス感染症の軽症者・無症状者の宿泊療養施設として提供しているホテルを含んでおります。

I-11. 2022年12月期 通期業績予想の修正について

(単位：百万円)

	前回発表 予想	今回 予想	増減額	増減率
売上高	104,000	102,000	△2,000	△1.9%
営業利益	2,800	1,700	△1,100	△39.3%
経常利益	1,500	1,500	0	-%
親会社株主に帰属する 当期純利益	400	400	0	-%
1株当たり 当期純利益(円)	0.22	1.60	1.38	-%

- ✓ 足元の「BA.5株」の流行による感染拡大第7波の影響に伴い、既存事業の売上高の回復が鈍化しておりますが、現時点では行動制限が緩和されていることから、「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」下と比較し、売上高の低下は一定程度、抑制されております。上記の状況を勘案し、7月以降における既存事業の売上高は、コロナ禍前の対2019年比で9割弱の水準で留まるものと想定しております。
- ✓ 原材料費や光熱費の高騰による影響と販売価格の見直しによる改善効果については、今回の業績予想の修正に織り込んでおります。
- ✓ 不確実性が高まる状況下において、売上高、営業利益は前回発表予想を下回るものの、第2四半期までの助成金収入の増加や持分法投資損益の改善、企業努力の継続等により、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想から増減しない見通しとしております。

※ 詳細は2022年8月5日開示の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

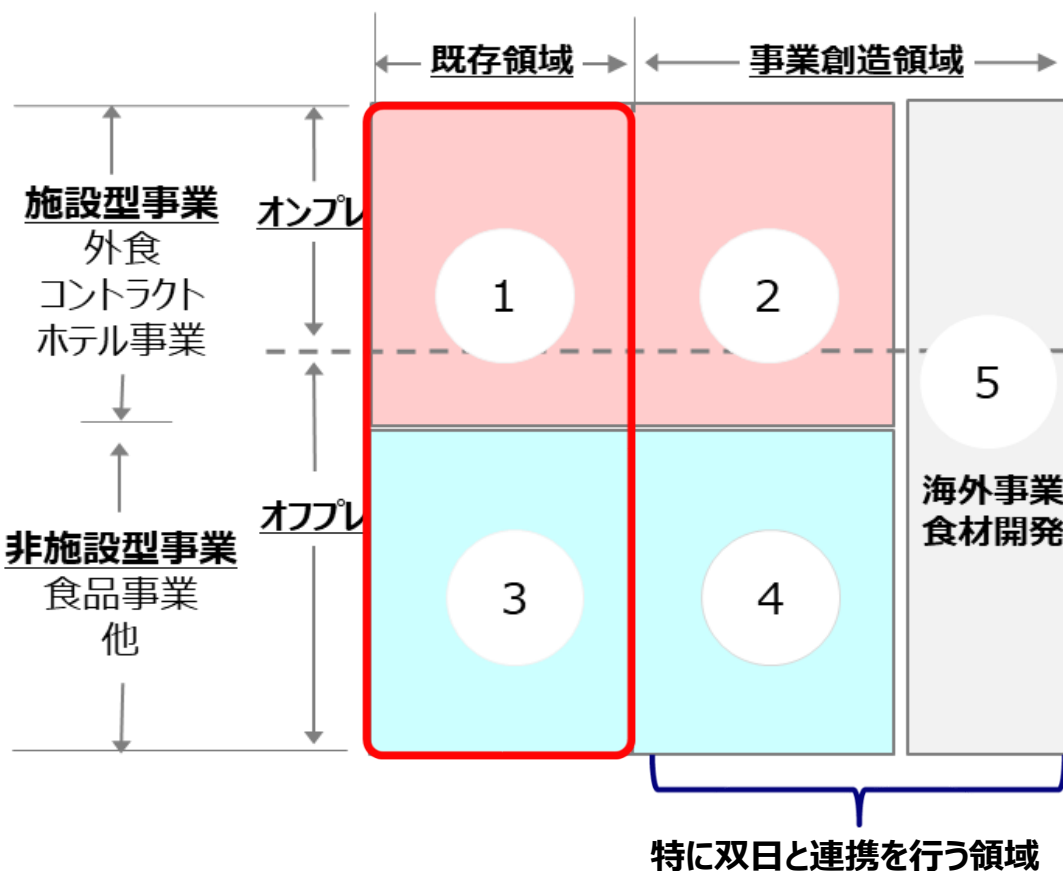
I 2022年12月期 第2四半期 実績報告

II 中期経営計画の進捗

III Appendix

Ⅱ-1. 新中期経営計画における事業戦略コンセプト

- 「既存領域」と「事業創造領域」、「オンプレミス」と「オフプレミス」に区分
- 「既存領域」は、戦略やオペレーションを深掘り



<カテゴリ 1>

- ・『高付加価値戦略』
- ・テイクアウト、デリバリー継続的強化

<カテゴリ 2>

- ・『新ライフスタイル型業態開発』

<カテゴリ 3>

- ・生産性向上、商品開発力強化

<カテゴリ 4>

- ・『リパッケージ戦略』
- ・当社の強みを活用（リパッケージ）した事業化・拡大

<カテゴリ 5>

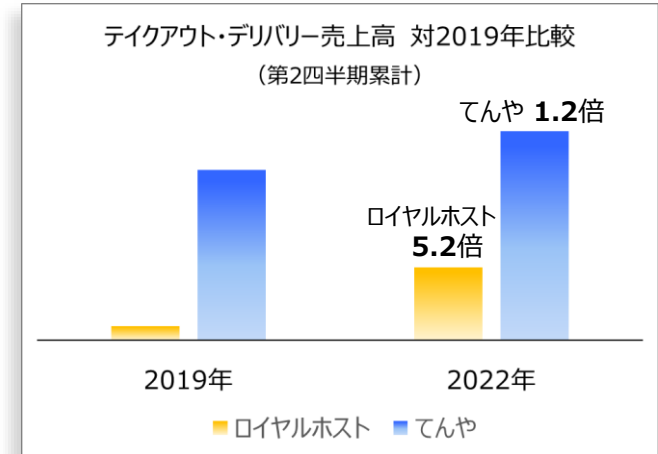
- ・グループ事業基盤強化

(注) オンプレミスとは自社施設により飲食（イートイン）や宿泊サービス提供等を行うもの、オフプレミスはテイクアウト・デリバリー等

Ⅱ-2. 既存領域・施設型事業（カテゴリー1）

➤ 外食事業：高付加価値戦略、テイクアウト・デリバリーの継続的強化

- 外食の楽しさ・豊かな食時間を訴求するフェア/季節メニュー
- 改装による店内環境・サービスの向上（ロイヤルホスト）
 - ・改装効果 客単価 +40円
- テイクアウト・デリバリーの継続的強化
 - ・イートイン売上回復後も、一定の売上高を確保し堅調な推移
 - ・モバイルオーダーの導入による利便性向上（ロイヤルホスト、天井てんや）



➤ コントラクト事業：拠点拡大

- 出店実績 2店舗
 - 3月 空港内 1店舗
 - 4月 高速道路 1店舗

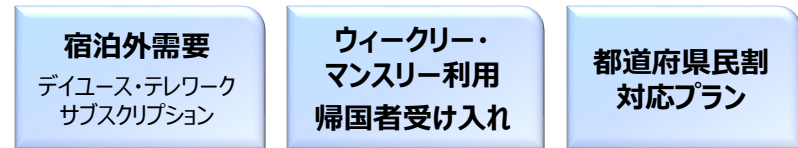


専門店からの業態転換
新千歳エアポートレストラン by Royal Host

- 業態転換 2店舗
 - 需要に応じたブランドへ転換
 - 6月 新千歳空港拠点（専門店からロイヤルホストへ）
 - 中部国際空港拠点（既存ブランドから新業態へ）

➤ ホテル事業：高付加価値戦略

- 稼働率、客室単価上昇への取り組み継続



稼働率へのインパクト +3.7%

- ターゲットの最適化
 - 各ホテルの立地・施設概要・ニーズなどをスコア化し明確化、プラン内容やサイトページ構成に反映しビジネス/レジャー需要の掘り起こし

➤ 外食事業：新ライフスタイル型業態開発



Lucky Rocky Chicken

バターミルクフライドチキン専門店
テイクアウト・デリバリー中心

事業モデル確立に向けた検証を継続

2022年8月現在 **4**店舗体制

■ 立地検証の結果を受けて、駅前・駅近を中心とした出店を想定

■ ファストフード業態としての再構築

・2022年8月1日 **代々木八幡店**（東京都渋谷区）をリニューアルオープン

➔ 標準人員数・食材ロス・機会損失の低減（セルフレジ増設、チキン保温庫導入、レイアウト変更）

➤ コントラクト事業： 新たな成長領域の開拓

■ **エンターテインメント施設へ出店予定**

■ 大型施設での付加価値をより高めた
店舗展開を準備

➤ ホテル事業： 新ライフスタイル型業態開発

■ リッチモンドホテル 43棟の「価値・強み」を分類

①ビジネス×ビジネス ②ビジネス×レジャー ③レジャー×ビジネス ④レジャー×レジャー

→それぞれの特性に合わせた運営で、価値・強みを最大化

■ レジャー需要の取り込み強化を目的として

2022年後半 **既存ホテル1棟 改装予定**

➤ 食品事業：生産性向上、商品開発力強化

工場

■ベーカリー製造ラインの統合

- ・ベーカリー製造機能を福岡工場に集約
- ・日配パンの製造を廃止し、焼成冷凍パンへ統一



今後も、成長性のある製造ラインの強化を目的とした工場の改装を検討中

商品開発

■2022年 各事業セグメントの 商品開発部門を食品事業子会社に移管・集約

■セントラルキッチンを活用したメニュー開発

- ➡ 外部仕入品をセントラルキッチン製品に切り替えることにより、**工場稼働率アップ**
- ・ロイヤルホストのグランドメニュー・予約限定メニューの開発
- ・コントラクト事業の共通メニューの開発



ロイヤルホストの
予約限定コースメニュー

Ⅱ-5. 事業創造領域・非施設型事業（カテゴリー4）

fine food is our business **ROYAL**

➤ 食品事業：リパッケージ戦略

フローズンミール『ロイヤルデリ事業』の販売拡大



■ チャネル別戦略

■ グループ内店舗

306店舗にて販売中（2022年6月末現在）

→7月26日リニューアルオープンした
「アペティートカフェメトロ（福岡県福岡市）」に
ショーケースを設置

・サマーギフト販売強化

→ロイヤルホストにてカレーフェア開催
→リッチモンドホテルの会員ポイントとの交換商品に採用

■ EC

- ・2022年2Q累計会員数 前年同期比 **1.9倍**
- ・ロイヤルホストの人気商品を集めた特集ページ
- ・人気商品を中心としたポイント販促
- ・店舗来店者のECへの送客

■ 外部販売

催事・常設店舗の展開、百貨店EC販売等

→催事・常設店実績 2022年 計**15カ所**

（2022年6月末現在）



中食マーケットの売上拡大

■ 双日グループのネットワークを活用した、**大手小売企業向けのPB商品の販売拡大**

・2021年 販売開始 → 2022年6月末現在 計 14アイテム販売中

■ **大手食品メーカーとのタイアップ**による販売拡大を準備中

Ⅱ-6. 事業創造領域・海外事業/食材開発 (カテゴリ-5)

fine food is our business **ROYAL**

➤ 海外事業：てんやFC事業の拡大、直営事業基盤の確立

てんやFC事業 の拡大

海外店舗数 **27**店舗
(2022年6月末現在)

タイ **12**
フィリピン **8**
香港 **4**
シンガポール **2**
中国 **1**

■ 出店実績

2022年 **3**店舗 (6月末現在)

4月 フィリピン
5月 中国 ※1号店 (広東省)
6月 香港

年内にマレーシア1号店を出店予定



Tenya SM Mall of Asia
(フィリピン)



天丼てんや 卓悦中心店
(中国)



天丼てんや 黄埔店
(香港)

■ 直営事業基盤の確立

双日グループと連携し、シンガポールにおける合弁事業を検討中

➤ 食材開発：フードテック参画

植物肉事業

2022年1月
戦略的業務提携契約を締結
(ロイヤルホールディングス・
双日グループ・ユニテックフーズ)
3社共創により、植物肉を
使用した製品を、競争力の
ある価格・品質で提供

2022年7月

動物性原料不使用の大豆ミート

「**NIKUVEGE (ニクベジ)**」を使用したメニューを
ロイヤルホストにて提供開始 ※一部店舗を除く

グループ内他業態においても今後、商品化予定



「NIKUVEGEタイ風スパイスライスプレート」
1,518円 (税込)

Ⅱ-7. 双日株式会社との業務提携に係る取り組み

SCM

- ✓ SCM推進等を通じた購買・物流のコストダウン
- ✓ 原材料価格高騰に対応した施策の推進

工場

- ✓ ロイヤルデリの売上拡大と収益性向上
- ✓ 大手小売企業との連携によるグループ外部向け売上の拡大

ホテル

- ✓ 客室単価の向上と収益性改善
- ✓ レジャー需要の取り込み強化

CX

- ✓ 各事業セグメントにおけるCX向上に向けた施策立案と支援
- ✓ グループCRM構築に向けた基盤整備

海外

- ✓ 共同出資によるシンガポール現地法人を活用した案件発掘や、シンガポールにおける合併事業の検討

機内食

- ✓ 事業推進に必要な工場や物流などの事業インフラ面での連携
- ✓ 非航空系ビジネス拡大のための連携

戦略的事業創造

- ✓ 植物肉事業に関する戦略的業務提携契約の締結（ロイヤルホールディングス、双日グループ、ユニテックフーズ）

Ⅱ-8. サステナビリティ課題への取り組み

1. サステナビリティ基本方針

私たちロイヤルグループは、“食”&“ホスピタリティ”企業グループとして、事業活動を通じて、社会・環境問題への対応に積極的に取り組み、各ステークホルダーとのつながりを大切に、明るい未来の創造と持続可能な社会の実現に貢献します。

⇒ 持続的成長と社会課題解決の両立を図り、全てのステークホルダーから共感・支持を得られる企業を目指す

2. SDGsを意識したステークホルダーとの関係性

《従業員》
人権・労働慣行に係る環境整備



《株主・投資家》
企業統治
情報開示の充実



《お客様》
お客様満足と持続可能な消費の両立



《取引先》
公平・公正な取引の実現



《未来・地球環境》
持続可能な事業活動の展開



《地域社会》
地域コミュニティへの貢献



⇒ サステナブルな社会の実現に貢献し、全てのステークホルダーから共感・支持を得られる企業を目指す

Ⅱ-8. サステナビリティ課題への取り組み

「サステナビリティ基本方針」に基づく 中期経営計画目標設定 (~2024年)

食品ロス削減

食品ロス 10%削減(2016年比)
(長期目標：2030年に2000年比半減)

女性管理職の 比率向上

女性管理職比率 20%達成
(長期目標：2030年までに30%達成)

障がい者雇用の 促進

グループ各社法定雇用率2.3%
を常時維持

健康経営の 推進

健康経営優良法人の認定維持

気候変動への 対応

CO2排出量削減
スコープ①②の削減方針の策定
スコープ③を含めた総量把握

ガバナンスの向上

コーポレートガバナンス・コード
全原則対応
(役員株式報酬制度の導入等を含む)

地域密着型 CSR活動推進

食育・教育・復興支援など、
取り組みの継続と社会環境の
変化に合わせたCSR活動の推進

2022年第2四半期現在のアクション

《取り組み成果》

■ 食品ロス削減・食品リサイクル

- ・mottECOの展開（食べ残しによる食品ロス削減）
 - ロイヤルホスト全店において、持ち帰りを希望する人へ紙製容器を提供
- ・食品廃棄量は、コロナ禍の影響を受けながらも前年比減少
- ・食品リサイクル率50.8%（対前年比+1.1%）

■ 女性管理職の比率向上

- ・次期管理職候補グループの組成を開始

■ 障がい者雇用の促進

- ・法定雇用率2.3%に対して、グループ全体で2.69%

■ 健康経営の推進

- ・健康経営宣言を発出し、健康診断受診率100%達成を推進中

■ 気候変動への対応

- ・CO2削減に関して数値把握は一部のみ、継続課題と認識

■ ガバナンスの向上

- ・CGコード対応は計画通りに進捗

■ 地域密着型CSR活動推進

- ・中学校等での出張授業は継続的に実施（実績：3校）
- ・外食事業における産学連携プロジェクトを積極的に推進

今後の重要取り組み課題に関して

■ 食品ロス削減・食品リサイクル

- ・外食事業会社との連携を強化し、未使用食材廃棄の削減およびゴミの分別レベルの向上を図る取り組みに注力
- ・持株会社所管部門を主体とする体制を整え、食品リサイクルの取り組みにつきグループ全業態、全地域への拡大を図る
－CSR委員会をサステナビリティ推進委員会に改組

■ 女性管理職の比率向上

- ・ダイバーシティの観点から、管理職候補育成に向けたグループ横断的な人事ローテーションを実施・継続

■ 障がい者雇用の促進

- ・支援学校との関係性を高め、定期的な採用活動に繋がる活動を人事企画部が主体となり展開
- ・働く環境を整備し拡大することを意識した“新たなビジネスモデル”を外部と協働し検討中

■ 気候変動への対応

- ・資本業務提携先の双日株式会社や他社の事例を参考に、当社グループにおいて実現可能性のある取り組みを立案
- ・サステナビリティ推進委員会および執行役員連絡会において、気候変動によるリスク炙り出しの議論を開始

■ 地域密着型CSR活動

- ・福岡において、キッザニア福岡のオフィシャルアクセラレーターとして「ゆめ応援プロジェクト」に参画予定（年度内）
－活動趣旨：「福岡・九州で未来を担うこども達の健全育成（生きる力の醸成）を支援し、地域社会に貢献する。」

I 2022年12月期 第2四半期 実績報告

II 中期経営計画の進捗

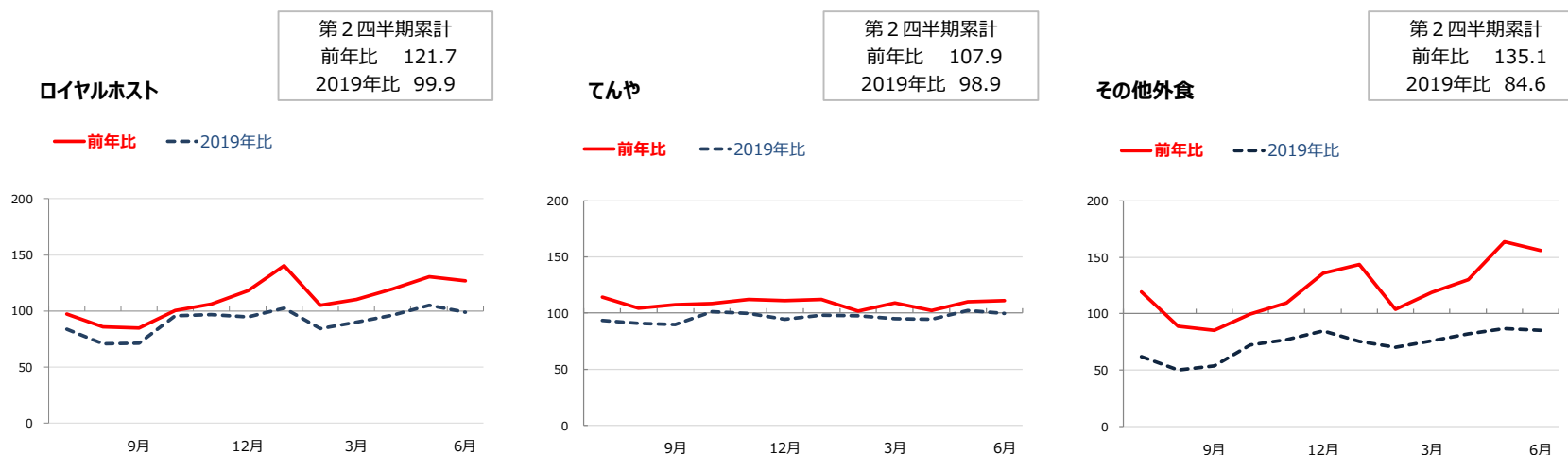
III Appendix

Ⅲ-1. 外食事業

(単位：百万円)

	2021年12月期 第2四半期		2022年12月期 第2四半期		増減額	
	売上高	経常利益	売上高	経常利益	売上高	経常利益
外食事業	21,240	326	25,191	1,813	3,950	1,486
ロイヤルホスト	13,463	671	16,307	1,666	2,844	995
てんや	4,856	536	4,960	352	104	△184
その他外食	2,921	△479	3,922	230	1,001	710
外食本部	0	△402	0	▲436	0	△34

〈〈 既存店売上前年（2019年）比 推移（%） 〉〉

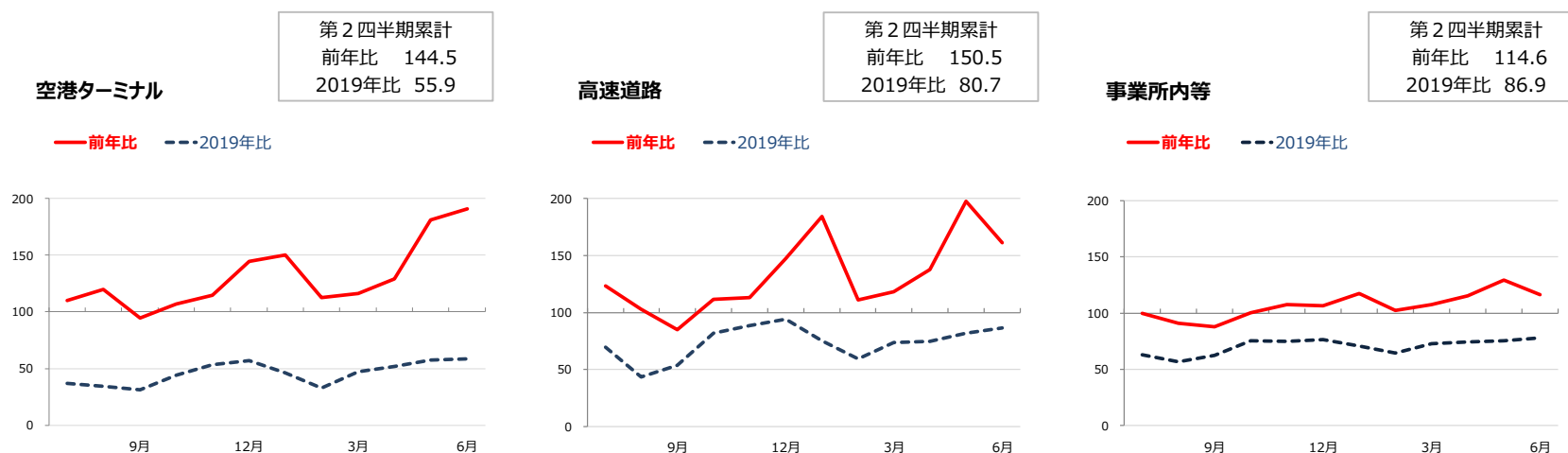


Ⅲ-2. コントラクト事業

(単位：百万円)

	2021年12月期 第2四半期		2022年12月期 第2四半期		増減額	
	売上高	経常利益	売上高	経常利益	売上高	経常利益
コ ン ト ラ ク ト 事 業	7,640	△678	10,259	385	2,618	1,063
空 港 タ ー ミ ナ ル	1,318	△87	1,927	150	608	237
高 速 道 路	2,543	△364	4,082	156	1,539	520
事 業 所 内 等	3,779	△46	4,250	321	470	367
コ ン ト ラ ク ト 本 部	0	△180	0	▲243	0	△62

〈〈 既存店売上前年（2019年）比 推移（％） 〉〉



Ⅲ-3. ホテル事業

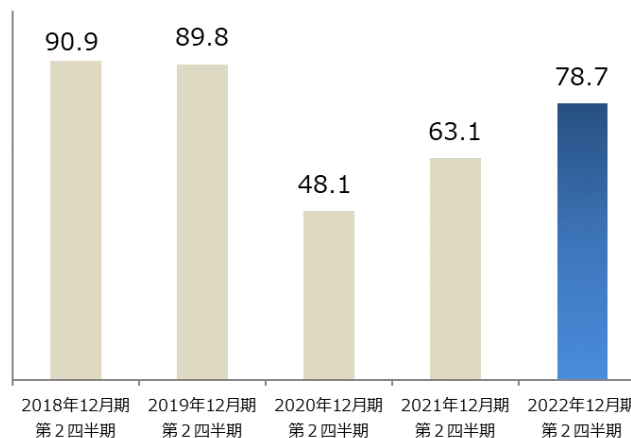
(単位：百万円)

	2021年12月期 第2四半期		2022年12月期 第2四半期		増減額	
	売上高	経常利益	売上高	経常利益	売上高	経常利益
ホテル事業	7,402	△2,094	9,957	▲554	2,555	1,540
リッチモンドホテル	7,402	△2,008	9,957	▲429	2,555	1,578
ホテル本部	0	△86	0	▲124	0	△38

【リッチモンドホテル 直営のみ】

	2021年12月期					2022年12月期		
	第1四半期 1月-3月	第2四半期 4月-6月	第3四半期 7月-9月	第4四半期 10月-12月	通期	第1四半期 1月-3月	第2四半期 4月-6月	第2四半期累計 1月-6月
店舗数(各四半期末)	42	42	42	42	42	43	43	43
各期末客室数(室)	8,498	8,485	8,485	8,485	8,485	8,669	8,669	8,669
直営ホテル客室稼働率	60.7%	65.5%	71.6%	83.4%	70.4%	74.4%	82.8%	78.7%

〈 客室稼働率推移 (%) 〉



Ⅲ-4. 既存店売上高 2019年比

2022年度

(%)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	第1四半期 累計	第2四半期 累計
外食事業	ロイヤルホスト	102.3	84.0	90.2	96.0	105.0	98.7	92.3	99.9
	てんや	97.9	97.6	94.8	94.7	102.2	99.9	96.7	98.9
	その他外食	75.4	70.1	75.8	81.9	86.8	85.1	74.0	84.6
コントラクト 事業	空港ターミナル	46.1	32.9	47.1	51.7	57.6	58.3	42.5	55.9
	高速道路	75.2	59.0	73.8	74.8	81.9	86.4	70.3	80.7
	事業所内等	70.8	64.6	72.7	74.4	75.7	77.9	69.5	86.9
ホテル事業	リッチモンドホテル	67.9	56.6	67.2	64.4	70.8	74.4	63.9	69.7

2021年度

(%)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 累計
外食事業	ロイヤルホスト	72.8	80.0	82.2	80.2	80.3	77.8	83.8	70.5	71.1	95.7	96.5	94.5	81.9
	てんや	86.2	94.9	86.5	91.3	91.5	89.2	93.5	90.7	89.6	101.4	99.9	94.7	92.3
	その他外食	50.8	64.1	62.1	57.9	47.7	51.7	61.9	50.2	53.6	72.1	77.2	84.9	61.0
コントラクト 事業	空港ターミナル	30.1	27.9	38.1	38.9	31.0	29.5	36.7	34.3	31.3	44.0	53.5	57.0	37.8
	高速道路	41.3	53.5	64.1	55.4	42.2	54.0	69.4	43.4	53.8	81.6	88.6	94.2	59.9
	事業所内等	58.1	61.2	67.5	63.5	54.5	63.4	62.9	56.8	62.7	75.6	74.9	76.3	64.8
ホテル事業	リッチモンドホテル	42.8	45.7	59.8	49.9	48.5	52.9	61.2	51.6	50.0	57.1	60.6	74.2	54.7

既存店売上2019年比の算定対象には、休業店舗や営業時間短縮店舗等を含んでおります。

Ⅲ-5. 店舗展開状況

	2021年 通期実績				2022年 第2四半期実績			
	開店	閉店/異動	増減	期末	開店	閉店/異動	増減	期末
外 食 事 業 計	13	△36	△23	488	4	▲29	▲25	463
ロイヤルホスト	4	△4		232	1	▲13	▲12	220
直 営		△4	△4	213				213
国内 F C※1	3		3	6	1		1	7
海外 F C	1		1	13		▲13	▲13	
てんや	3	△18	△15	182	3	▲5	▲2	180
国内直営	1	△9	△8	116		▲1	▲1	115
海外直営								
国内 F C※1		△7	△7	40		▲2	▲2	38
海外 F C	2	△2		26	3	▲2	1	27
カウボーイ家族		△3	△3	4		▲4	▲4	
シェーキーズ	1	△2	△1	19				19
直 営	1		1	13				13
F C 等		△2	△2	6				6
シズラー				10				10
ロイヤルガーデンカフェ		△2	△2	6				6
直 営		△1	△1	6				6
F C 等		△1	△1					
その他専門店	5	△7	△2	35		▲7	▲7	28
直 営	5	△7	△2	35		▲7	▲7	28
F C 等								
コントラクト事業計	8	△18	△10	176	2	▲10	▲8	168
空港内レストラン・売店等		△1	△1	32	1		1	33
高速道路内レストラン・売店	1	△1		14	1		1	15
直 営	1	△1		12	1		1	13
F C 等				2				2
ビジネス&インダストリー	7	△11	△4	70		▲5	▲5	65
シルバー・ヘルスケア		△2	△2	38		▲3	▲3	35
百貨店内レストラン等		△3	△3	22		▲2	▲2	20
ホテル事業計	1	△2	△1	50	2		2	52
リッチモンドホテル等	1		1	45	2		2	47
直 営				42	1		1	43
F C 等	1		1	3	1		1	4
ホテル直営レストラン		△2	△2	5				5
グループ合計※1	19	△56	△37	703	7	▲39	▲32	671
直 営	15	△44	△29	618	3	▲22	▲19	599
F C 等※1	4	△12	△8	85	4	▲17	▲13	72
(内、海外 F C)	3	△2	1	39	3	▲15	▲12	27

※1 グループ内 F C 店舗を含む。てんや「国内 F C」6店舗、ロイヤルホスト「国内 F C」6店舗 は、他のセグメントと重複カウントとなるため、グループ合計からは除外

- 本資料に記載している売上高には、その他の営業収入を含めております。
- 本資料に記載している営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益については、それぞれ営業損失・経常損失・親会社株主に帰属する当期(四半期)純損失の場合に「△」で表示しております。
- 本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関する問い合わせ先：
ロイヤルホールディングス株式会社
財務企画部 電話：03-5707-8873